

# 東北地方 1か月予報

(5月3日から6月2までの天候見通し)

平成15年5月2日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

天気は概ね周期的に変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並、3～4週目は平年並の見込みです。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

## <予報の対象期間>

1か月 : 5月 3日(土)～ 6月 2日(月)

1週目 : 5月 3日(土)～ 5月 9日(金)

2週目 : 5月 10日(土)～ 5月 16日(金)

3～4週目 : 5月 17日(土)～ 5月 30日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は5月9日

3か月予報:5月22日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温( )	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温( )		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	13.9	151.1	197.1	12.3	13.3	14.7
新庄	14.5	104.1	182.6	12.5	13.8	15.4
若松	15.8	79.7	199.8	14.0	15.1	16.6
深浦	13.3	103.9	200.0	11.6	12.7	14.0
青森	13.4	77.2	211.4	11.7	12.8	14.1
むつ	12.4	91.3	207.7	10.7	11.9	13.1
八戸	13.3	86.3	208.5	11.8	12.9	13.9
秋田	14.5	118.4	194.8	12.7	13.8	15.2
盛岡	14.1	101.7	195.9	12.3	13.5	14.9
宮古	13.3	99.6	191.2	11.9	12.9	13.8
酒田	15.2	112.4	201.7	13.4	14.5	15.9
山形	15.8	82.0	203.5	14.0	15.1	16.5
仙台	15.2	107.8	197.7	13.6	14.6	15.8
石巻	14.3	98.5	205.6	12.6	13.7	14.9
福島	16.8	88.0	197.0	15.2	16.3	17.5
白河	15.1	121.5	188.2	13.6	14.5	15.8
小名浜	15.3	146.1	199.8	14.0	14.9	15.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3~+0.5	85~113	97~105
東北日本海側	-0.3~+0.4	83~114	96~105
東北太平洋側	-0.3~+0.4	81~111	97~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.9	-0.4~+0.7	-0.4~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.9	-0.4~+0.7	-0.5~+0.5
東北太平洋側	-0.5~+0.8	-0.3~+0.7	-0.4~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成15年5月2日 仙台管区気象台

## 1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(5月3日~6月2日) :

天気は概ね周期的に変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(5月3日~5月9日) :

期間の前半は高気圧に覆われ晴れますが、後半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の降る所が多い見込みです。

平均気温は高いでしょう。

2週目(5月10日~5月16日) :

天気は周期的に変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(5月17日~5月30日) :

天気は概ね周期的に変わりますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で一時天気がぐずつくでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

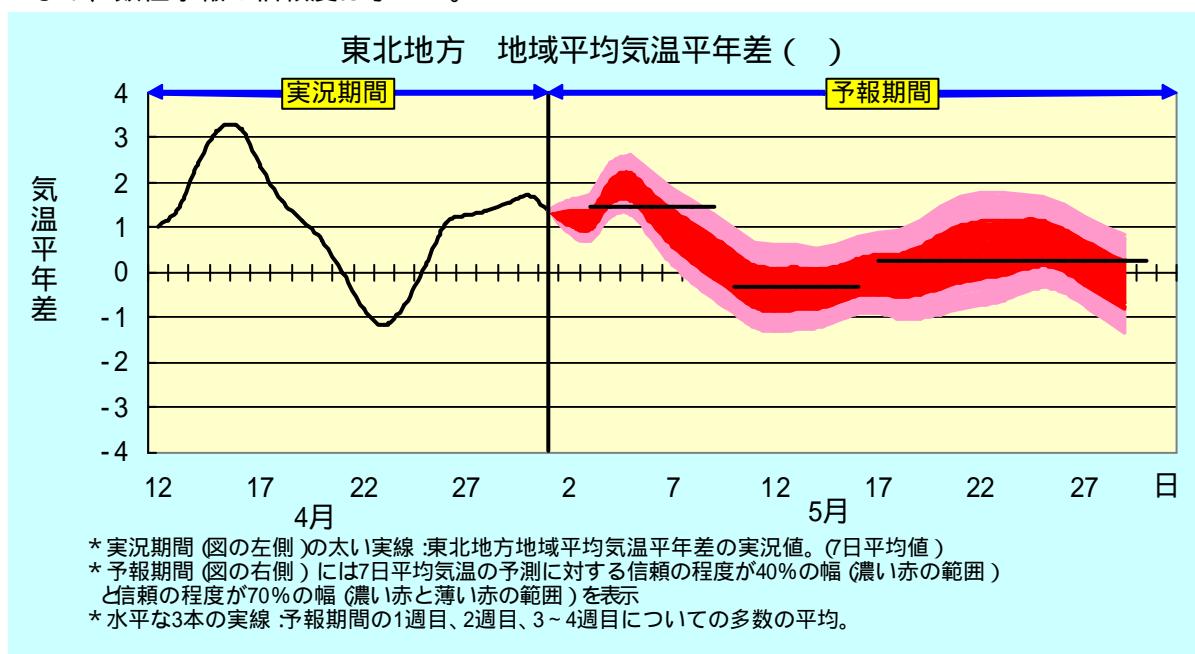
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.2日	3.9日	4.0日	8.3日
東北太平洋側	16.2日	4.1日	4.0日	8.1日

## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目を「平年並」、3~4週目を「平年並」と予測している。予報は、数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

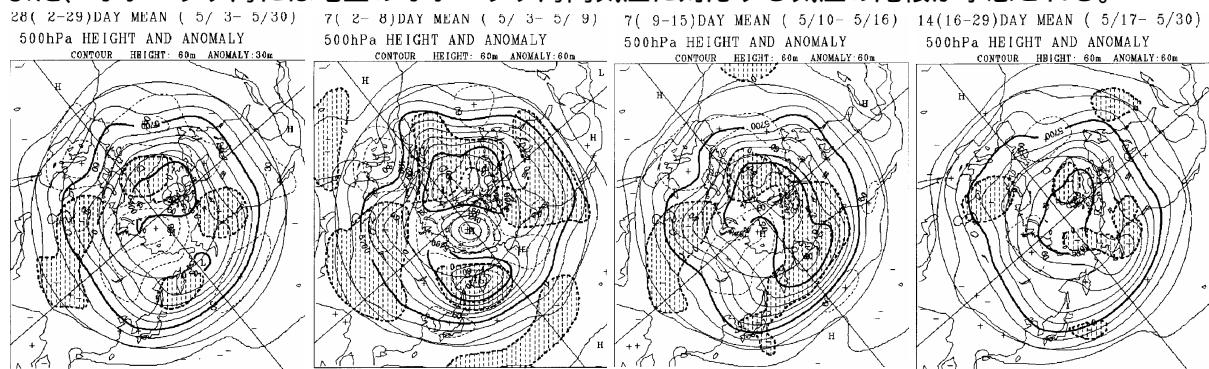


### 3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

#### 500hPa 高度と偏差：

月平均では、カムチャツカ半島付近に弱い負偏差が広がるが、シベリアから極域に強い正偏差があり、日本付近も正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期的に変化する見込み。

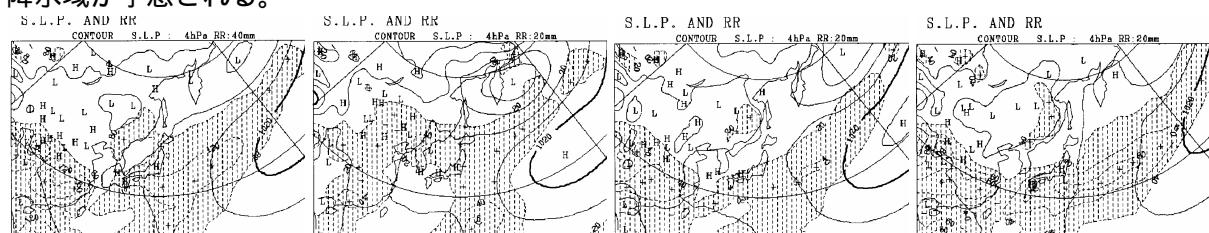
週別に見ると、1週目はシベリアからカムチャツカ半島の東にかけては負偏差となるが、日本付近は日本海を中心を持つ正偏差に覆われる。2週目はカムチャツカ半島から東日本にかけて弱い負偏差がのびる。3~4週目は、日本の東海上に負偏差が残るが、日本付近は弱い正偏差となる。また、オホーツク海には地上のオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想される。



#### 地上気圧と降水量：

月平均では、ほぼ平年と同様の気圧配置。まとまった降水量は日本の南海上で、日本付近には弱い降水量が広がる。

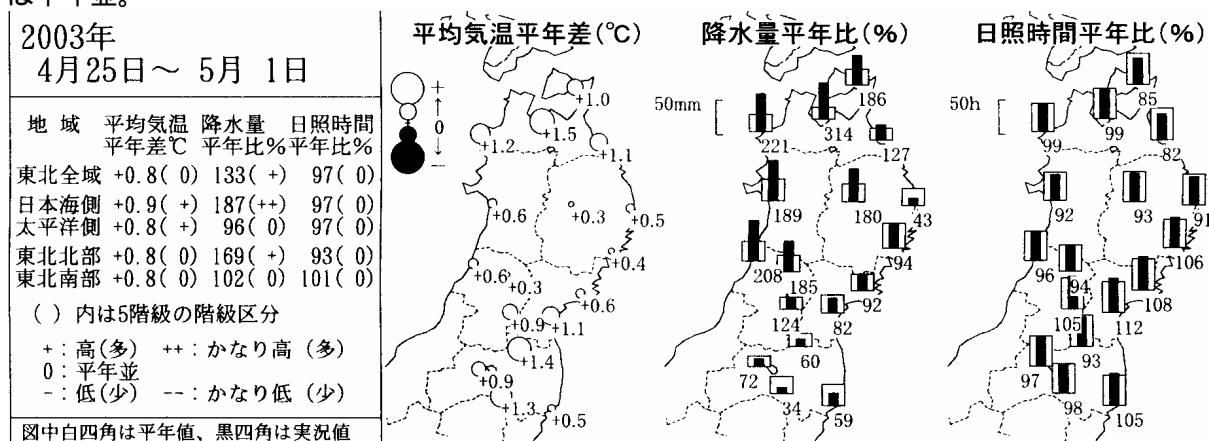
週別に見ると、1週目は日本付近は高圧帯。2週目も、日本付近は平年に比べ気圧が高く高圧帯となる。3~4週目は、降水量の位置は平年とほぼ同様で、本州の南岸から南西諸島にまとまった降水量が予想される。



### 4. 最近1週間（4月25日～5月1日）の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化し、25~26日と30日は前線や低気圧の影響で雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて晴れた。ただし、低気圧が発達しながら日本海を進んだため、東北日本海側の降水量はかなり多くなった。

平均気温は平年並。降水量は、東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)